

「食生活が人相まで変えた」

江戸時代、水野南北という人がいました。観相家です。宝暦7年(1757年)に生まれ、天保5年(1834年)77歳で亡くなりました。江戸時代のこのころは平均寿命が40歳ほどですから、ずいぶん長生きだったといえます。

水野南北は幼少期に両親と死別、大阪のおじ夫婦に引き取られます。10歳の時にはすでに酒を覚え、その後何年も、酒・ばくち・けんかに明け暮れる毎日でした。

18歳の時、おじの金を盗むなどして、牢に入ることになりました。それまでに盗み、脅し、詐欺まがい、いろいろやったようです。その牢内で、罪を犯す人間とそうでない人間に、人相上の違いがあると気づきました。

人には生まれながらのシナリオがあります。後にすごい観相家になった水野南北でしたが、最初のスタートは牢内だったのです。獄を出てから、自分の人相を易者に見てもらったところ「あと一年の命」と言われました。「それを避けるには出家のほかはない」と。

知り合いの住職に相談したところ「一年間、麦と大豆だけの生活をしたら入門を許す」ということだったので、水野南北はそのとおりにしたのだそうです。

一年後、同じ易者は「死相が消えているだけでなく、立派な相になった」と感心してくれました。「その食生活が陰徳となって人相まで変えた」と言ったそうです

本格的に相を学ぼうと旅に出た水野南北は、髪結いに奉公3年、湯屋の奉公人になって3年、墓守になって墓を守ること3年の日々を過ごします。頭の形、生きているときの体の形と死んだあとの骨の形(骨相)などを研究しました。

さて、それほどに観相学に打ち込んだ水野南北でしたが百発百中というわけではありませんでした。どうしても例外がある。吉相だと思っても、どんどん衰運になる人がいる。逆に、とても貧相な人で興隆運の人もある。なぜだろうと悩んでいる時、突然ひらめきがあったといいます。それは…



「人の運は食にあり」

というもので、人を占うのにまずその人の飲食の様子を聞いて、それによって運・不運を判断したところ、万に一つも誤りがないことが分かり、そこに気づいてからは、「百発百中、当たらざるなし」と言われました。

「人の運は食にあり」小林正観著より

面白い話だと思いませんか？

私も去年より福岡の「望診法」の研修に頑張っていて通ってますが、まさしく食べ物がどう相にあらわれ、病気や健康にどう影響するかの勉強です！！

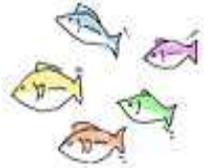
では～どういう食生活をすればいいのか？

長生きする人の食生活の共通点をご紹介します！

身土不二・・・四里四方で採れた旬のものを中心に
シンドフジ 食べる人



一物全体・・・「食」は他の命を頂くことであり、命は
イチモツゼンタイ 部分ではなく全体で一つの命と考えた
食べ方ができる人
(魚～頭から尻尾まで・・・)
(大根～葉っぱも一緒に・・・)



食動平衡・・・食べる量と体を動かすエネルギーの
ショクドウヘイコウ バランスをとる人
(食うなら動け、動かないなら喰うな！)



食物配合・・・バランスよく食べる人
(食べ物の取り合わせを上手に！)



この四つの原則に沿ったうえで、食べ過ぎ・飲み過ぎを
控える事が難しいけど「健康長寿」への道だそうです！

P.S.

それぞれの顔相(他)の様子を見させて頂き、食べ物で
言うと何を減らして、何を増やして食すればいいかの
アドバイスをする自信が望診法研修も10ヶ月になり
少しですがでてきましたので、興味のある方は勇気を出して申し出て下さい!!(笑)

今回のテーマこそ「バイオリンク健康法」
の有効性の本質になると思います！



(身土不二～一物全体) ＝ バイオリンク
イコール